

2025年3月8日(土)

子どもの日本語教育研究会 第10回大会



ワークショップ後に見る参加者の学びと変化 —「サマープログラム2022」の振り返りを通して—

久保田 育美(明石工業高等専門学校)

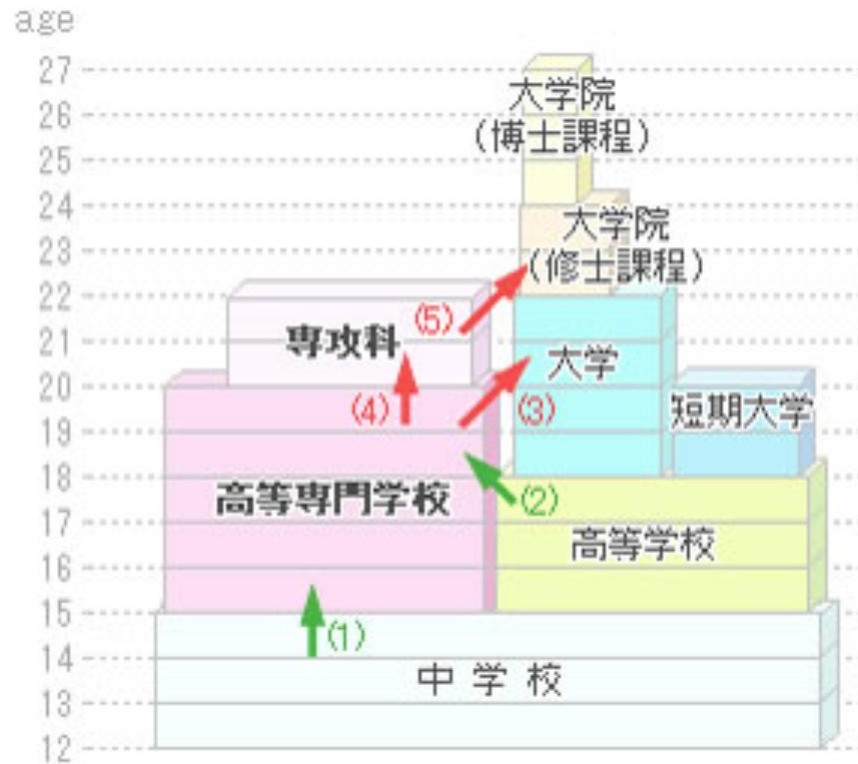
1. 本発表の背景

- ✓ 高等専門学校（高専）
- ✓ タイ政府派遣留学生事業
- ✓ サマープログラム2022

✓ 高等専門学校（高専）

本科（5年制）および専攻科（2年制）からなる
高等教育機関

高専に在籍する留学生数



留学事業	人数
国費留学生	201
私費留学生	18
マレーシア政府派遣留学生	115
モンゴル政府派遣留学生	64
タイ政府派遣留学生 (PCSHS)	70
タイ政府派遣留学生 (タイ高専)	9
合計	477

(令和4年5月1日時点)

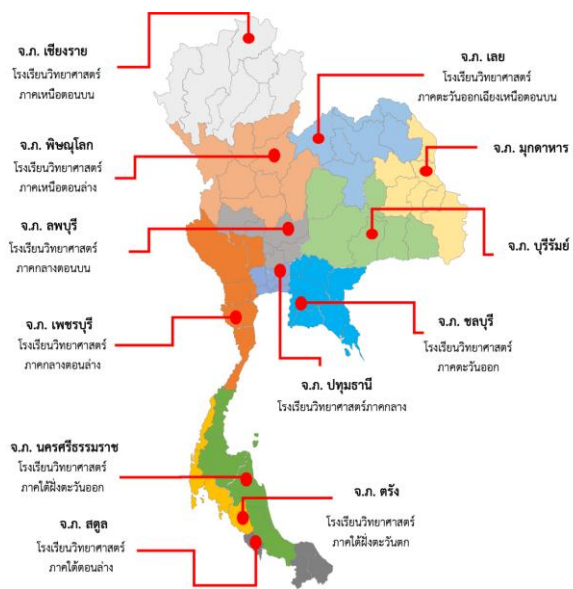
<出所>国立高等専門学校機構, 国立高等専門学校の学校制度上の特色,
<https://www.kosen-k.go.jp/nationwide/features>
(2025-02-22参照)

<出典>国立高等専門学校機構, 外国人留学生の受入れ,
https://www.kosen-k.go.jp/global/foreign_student
(2025-02-22参照)

✓ タイ政府派遣留学生事業

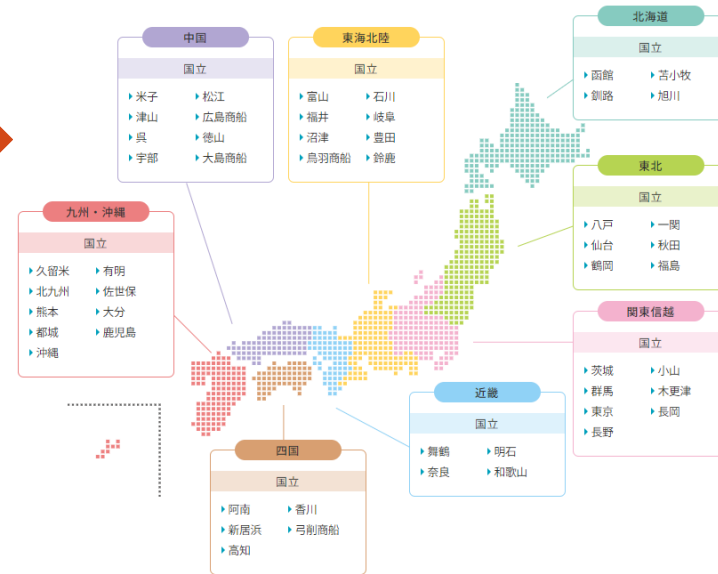
2018年度より高等専門学校機構が事業を開始

プロジェクトに参加する各高専が学生の受入れ・支援を担当



プリンセスチュラปอนサイエンスไฮスクール (PCSHS)

<出所>PCSHS Loei,
<http://pcshsloe.ac.th/web/pcshs-thailand/> (2025-02-22参照)



高専

<出所>国立高等専門学校機構, 全国の国立高専,
https://www.kosen-k.go.jp/nationwide/all_kosen_linkmap
 (2025-02-22参照)

サマープログラム

✓ サマープログラム2022

- 担当：タイ政府奨学金留学生の受入れ高専
- 参加者：タイ政府奨学金留学生事業の最終選考に残った中学3年生
- 実施目的：詳細は担当校が決定

- 担当：明石高専

- 参加者： //

- 実施目的：

【課題】日本語学習の機会の確保が困難

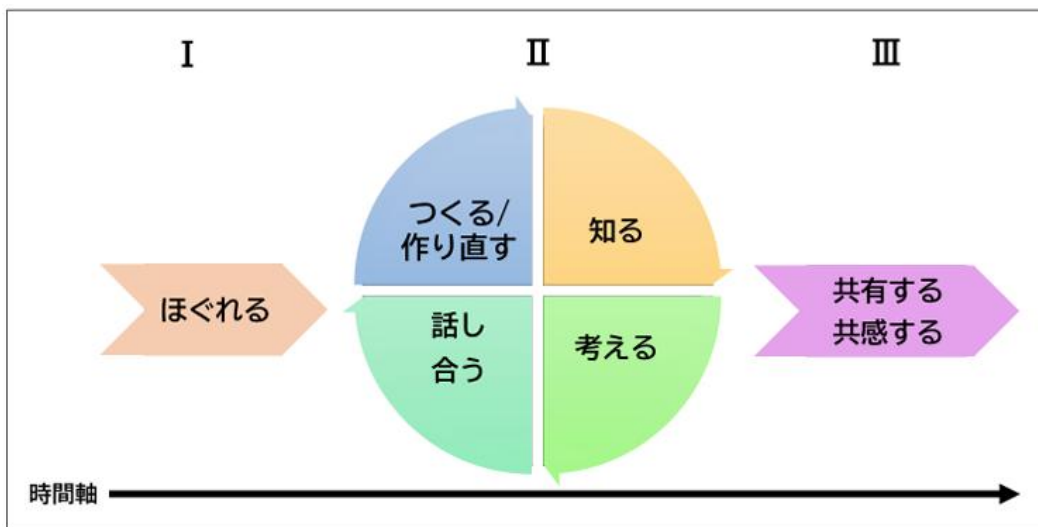
➔ **日本語学習に対する動機は十分・・・？**
自分事として捉えている・・・？

【目的】日本語学習、高専進学に対するモチベーションの向上

✓ サマープログラム2022

【活動内容】

活動のフェーズ



<出典>久保田 (2023, pp. 69-70)

時間	活動内容	活動のフェーズ	
【1日目】8月24日(水)			
8:30	オープニング	I, II	
8:45	アイスブレイク 1 (※サ)		
9:45	アイスブレイク 2 (※サ)		
11:00	メイン活動 (ドラマ制作) の導入	メイン活動	II
12:00	昼食休憩		
13:30	明石高専オンラインツアー (※サ)		
14:30	ドラマ制作		
15:30	タイの先輩学生からのこぼれ話		
16:00	ドラマ制作		
16:30	1日目のまとめと翌日のスケジュール確認		
【2日目】8月25日(木)			
8:30	アイスブレイク 3 (※サ)	I	
8:50	2日目のスケジュール確認		
9:00	6高専とのオンライン交流会 (※サ)	メイン活動	II
10:15	ドラマ制作		
12:00	昼食休憩		
13:00	ドラマ制作		
14:00	ドラマの上映会	III	
15:30	アンケート回答		
16:00	エンディング		
16:30	終了		

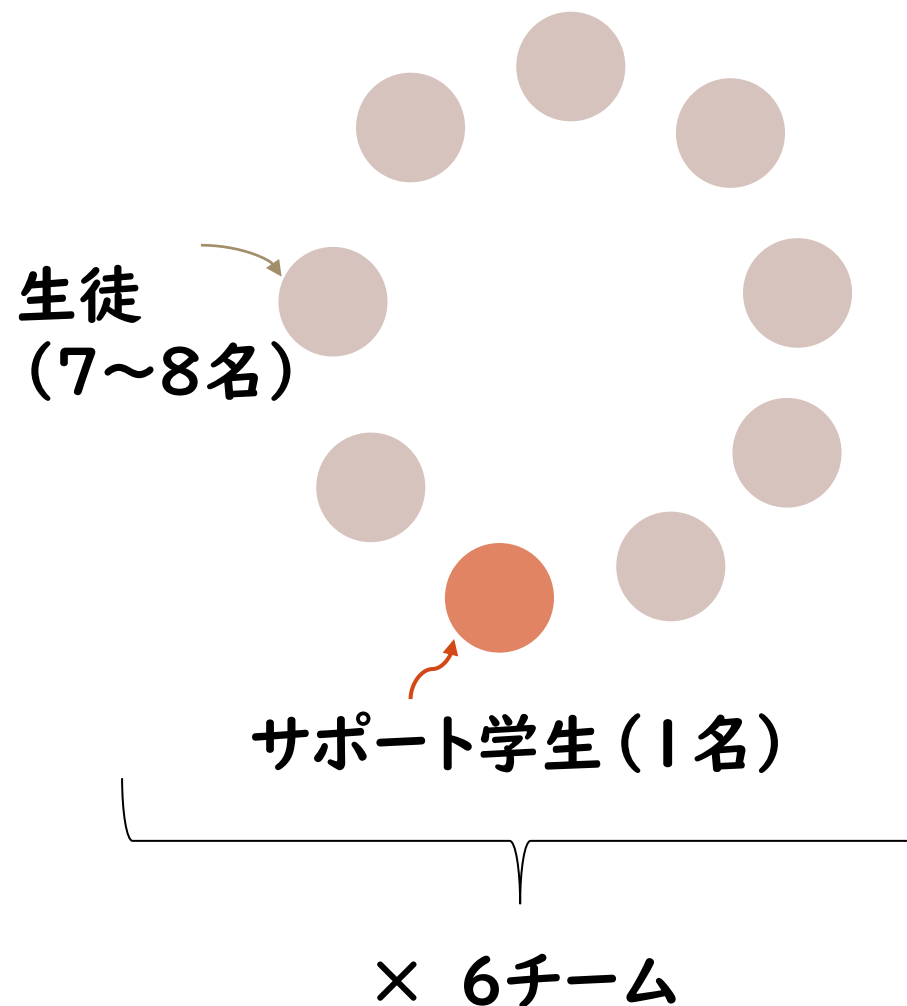
✓ サマープログラム2022

【参加者】

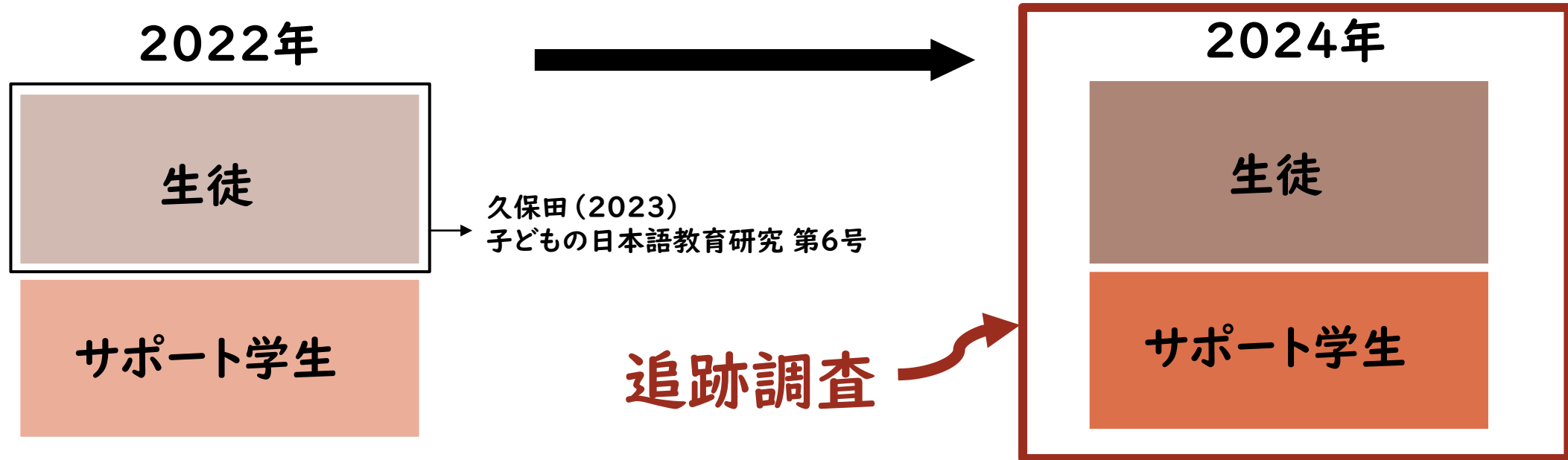
生徒 45名

サポート学生 6名
(フロアファシリテーター)

教員 (チーフファシリテーター)
タイ出身の高専生、現地校の教職員
(サポート要員)



2. 本発表の目的



本発表で
明らかにすること

[1] プログラムを通して得た学びや気づき

[2] その後の変化

[3] 「サマープログラム2022」の実践の意義

3. 追跡調査（アンケート調査）の方法

- ・対象者 : 生徒2名（現明石高専生）、サポート学生6名
- ・実施時期 : 2024年9月～11月
- ・アンケート形態 : 5件法、記述（※生徒2名にはインタビューも実施）
- ・質問内容 :

実践当時と関連

	SP2022 実践の目的	追跡調査の質問項目
生徒	①日本語学習並びに高専進学への動機向上	① SP2022 で得た高専/高専生に対するイメージと入学後の現実に違いがありましたか。それは何ですか。
	②生徒・学生同士の交流の促進	②-1 入学後、連絡や交流を続けている参加者はいますか。 ②-2 SP2022 はあなたにとってどんなプログラムでしたか。
サポート学生	SP2022 実践当時の振り返り項目	追跡調査の質問項目
	③プログラムを通して最も印象に残ったことは何ですか。	③ 今現在においても印象に残っていることがありますか。それは何ですか。
	④自分について変わったこと、気付いたことがあれば教えてください。	④ SP2022 がきっかけで、自分について変わったこと(言動、考え方、興味関心)がありますか。それは何ですか。
	⑤今回の経験をどのように活かしたいと考えていますか。	⑤ SP2022 がきっかけで、その後新しく始めたこと、挑戦したことがあれば教えてください。

4. 調査の結果

生徒

①「サマープログラム2022」で得た高専／高専生に対するイメージと入学後の現実に違いがありましたか。それは何ですか。

- 先輩たちのキャラクター
- 1年生のときは授業で英語がたくさんあると思ったが、実は少なかった
- 夏休みの課題がとても多い
- 思っていたより学校の周りが便利

➡ とくに日常生活に直結する事柄について、
当時のイメージと現実との違いを実感

4. 調査の結果

生徒

②-1 入学後、連絡や交流を続けている参加者はいますか。

- 同じ中学校から参加した友だち
- プログラム期間中寮で同部屋だった友だち

②-2 「サマープログラム2022」はあなたにとってどんなプログラムでしたか。

- 高専からの先輩と活動できた
- 日本語の練習ができた
- 日本人もタイ人も仲良くなれる
- 自分が演じる勇気を持てた

➡ 継続的な人間関係には発展していない

当時は参加者間の交流が活発だった

4. 調査の結果

サポート学生

③今現在においても印象に残っていることがありますか。
それは何ですか。

- 母語が違う者同士が英語で直接言葉を交わし、互いを知ることができたこと
- 高専留学への意思がある生徒がたくさんいること
- 生徒の能力（創造力、行動力、協働力）
- 日本文化にすごく興味を持ってくれて、お笑いも通じたこと
- インフラ整備が不完全なこと（停電、蛇口から泥水、床に蟻の大群）
- 予想と違い、必ずしも富裕層の家庭ではないこと

➡ 自分の経験値の向上、生徒に対する感心、環境への気づき

4. 調査の結果

サポート学生

④「サマープログラム2022」がきっかけで、自分について変わったこと（言動、考え方、興味関心）がありますか。それは何ですか。

- サマープログラムをきっかけに、海外活動、高専内の異文化交流活動に参加
- 日本について正しい文化を広めたいと思い、SNSで発信活動を始めた
- ただの海外旅行ではなくもっと密に異文化を体感しようとしている
- 今回の体験で、今までより広い視野で物事をとらえるようになった
実際にタイを訪れ、テレビの前だけでは知り得ないことを間近で見た
- 新しいことに挑戦するハードルが低くなった

➡ **グローバルな活動に参加・関与**、**視野の広がり**、**新たな挑戦**

4. 調査の結果

サポート学生

⑤「サマープログラム2022」がきっかけで、その後新しく始めたこと、挑戦したことがあれば教えてください。

- 海外での活動（学内の海外研修、個人で短期留学、学外の海外派遣プログラム）
- 国内での国際交流活動（学内アンバサダー活動、大学の国際交流団体、ボランティア活動）
- SNSによる日本文化発信
- 英語学習
- 外国語学習

➔ **国内外を問わず各種活動に参加、言語学習への意欲向上**

5. 考察

[1] プログラムを通して参加者が得た学びや気づき (※サポート学生のみ)

- ・異文化理解や視野を広く持つ姿勢
- ・共に活動した相手の良さや強みの発見

[2] その後の参加者の変化

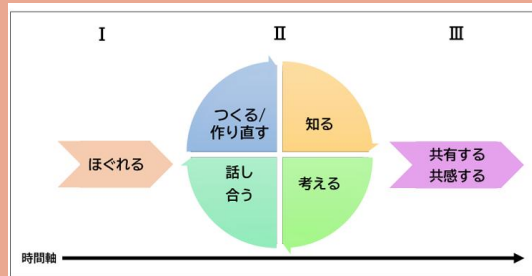
- ・【生】高専進学を目指す過程での一つの経験
- ・【サ】自分の新たな目標設定、グローバルな活動を開始する契機

[3] 「サマープログラム2022」の実践の意義

5. 考察

[3] 「サマープログラム2022」の実践の意義

- ・【生】仲間とともに日本語で活動ができた



全てのフェーズを
日本語で、高専生と行えた

- ・【サ】得られた経験や学びを次の挑戦へと繋げる糧とすることができた

普段と異なる場、相手、文化
新しいことに触れた

企画・実施に
携わることができた

参考文献

久保田育美(2023)「ドラマ制作から初級日本語学習者は何を得たか—高専進学を目指す中学生を対象にした「サマープログラム2022」のデザイナー—」子どもの日本語教育研究、第6号、pp. 64–85.

国立高等専門学校機構(2022)「外国人留学生の受入れ」
<https://www.kosen-k.go.jp/global/foreign_student>
(2025年2月22日閲覧)